



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月7日

上場会社名 株式会社琉球銀行  
コード番号 8399 URL <https://www.ryugin.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 取締役頭取 (氏名) 川上 康  
問合せ先責任者 (役職名) 総合企画部長 (氏名) 渡名喜 郁夫 TEL 098-866-1212  
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 特定取引勘定設置の有無 無  
配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	49,611	14.0	6,589	3.2	4,591	3.8
2023年3月期第3四半期	43,519	2.1	6,384	△5.7	4,424	△9.7

(注)包括利益 2024年3月期第3四半期 5,061百万円 (400.6%) 2023年3月期第3四半期 1,011百万円 (△81.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	110.26	110.08
2023年3月期第3四半期	104.23	103.92

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2024年3月期第3四半期	3,013,032		141,765		4.7	
2023年3月期	3,042,523		138,162		4.5	

(参考)自己資本 2024年3月期第3四半期 141,700百万円 2023年3月期 138,002百万円

(注)「自己資本比率」は、(期末純資産の部合計-期末新株予約権)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

なお、本「自己資本比率」は、自己資本比率告示に定める自己資本比率ではありません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	17.50	—	17.50	35.00
2024年3月期	—	18.50	—		
2024年3月期(予想)				18.50	37.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,200	3.5	7,400	△12.9	5,100	△13.5	122.75

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	43,108,470 株	2023年3月期	43,108,470 株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,440,206 株	2023年3月期	1,559,153 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	41,637,116 株	2023年3月期3Q	42,452,411 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

[添付資料の目次]

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 財政状態に関する定性的情報	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 4
四半期連結損益計算書	P. 4
四半期連結包括利益計算書	P. 5
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 5
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 5
(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	P. 5
(6) 追加情報	P. 5
2024年3月期 第3四半期財務・業績の概況説明資料	P. 6
1. 損益の概況【連結】	P. 6
2. 損益の概況【単体】	P. 7
(1) 概況	P. 7
(2) 実質業務純益	P. 8
(3) 株式等関係損益(3勘定戻)	P. 8
(4) ネット与信費用	P. 8
(5) 四半期純利益	P. 8
【参考】顧客向けサービス利益	P. 8
3. 預金・貸出金等の状況	P. 9
(1) 預金(単体・末残および利回り)の推移	P. 9
(2) 預かり資産(単体・末残)の推移	P. 9
(3) 貸出金(単体・末残および利回り)の推移	P.10
(4) 時価のある有価証券の評価差額(連結)の推移	P.10
(5)-1 金融再生法開示債権(単体)の推移	P.11
(5)-2 自己査定の方考え方	P.11
(6) 自己資本比率(連結・単体)の推移	P.11
(7) カード業務利益(単体)の推移	P.12
(8) りゅうぎんVisaデビットカード会員数および加盟店契約数の推移	P.12
(9) コンサルティング業務利益(単体)の推移	P.13
(10) リース業務利益(連結)の推移	P.13
<参考> 預金・貸出金等の状況【数値編】	P.14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

経常収益は、2022年12月1日に連結子会社化した株式会社リウコムにおける売上高や貸倒引当金戻入益の増加等により前年同期比60億92百万円増加の496億11百万円となりました。

一方、経常費用は、上述の連結子会社化に伴う売上原価や主に米国金利上昇による外貨調達コストの増加等により前年同期比58億87百万円増加の430億21百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比2億5百万円増加の65億89百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1億66百万円増加の45億91百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

財政状態について、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比294億90百万円減少の3兆130億32百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末比36億2百万円増加の1,417億65百万円となりました。

主要勘定としては、預金等（譲渡性預金を含む）は、個人預金を中心に増加したことから、前連結会計年度末比519億13百万円増加の2兆7,806億93百万円となりました。貸出金は、個人向け貸出が住宅ローンを中心に好調に推移したことに加え、法人向け貸出では資金需要が回復したことにより残高が増加したことから、前連結会計年度末比118億47百万円増加の1兆8,399億7百万円となりました。有価証券は主に国債の取得により前連結会計年度末比1,998億50百万円増加の6,770億25百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日公表の通期の連結業績予想については、金融市場の動向や、物価上昇が景気に与える影響を見極める必要があることから、2024年3月期通期の業績予想は変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

（1）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	598,662	346,910
コールローン及び買入手形	1,649	999
金銭の信託	514	525
有価証券	477,175	677,025
貸出金	1,828,059	1,839,907
外国為替	8,995	4,870
リース債権及びリース投資資産	22,879	25,291
その他資産	71,155	74,176
有形固定資産	25,006	33,698
無形固定資産	3,976	3,380
退職給付に係る資産	1,138	1,130
繰延税金資産	5,157	4,265
支払承諾見返	7,547	8,172
貸倒引当金	△9,395	△7,320
資産の部合計	3,042,523	3,013,032
<b>負債の部</b>		
預金	2,707,158	2,741,470
譲渡性預金	21,621	39,222
債券貸借取引受入担保金	36,805	34,563
借入金	104,865	19,829
外国為替	60	103
その他負債	22,572	24,756
賞与引当金	761	221
役員賞与引当金	12	-
退職給付に係る負債	534	563
役員退職慰労引当金	28	22
偶発損失引当金	85	78
ポイント引当金	170	162
利息返還損失引当金	191	155
再評価に係る繰延税金負債	1,944	1,944
支払承諾	7,547	8,172
負債の部合計	2,904,361	2,871,267
<b>純資産の部</b>		
資本金	56,967	56,967
資本剰余金	14,225	14,244
利益剰余金	68,634	71,727
自己株式	△1,534	△1,417
株主資本合計	138,292	141,521
その他有価証券評価差額金	△1,148	△694
土地再評価差額金	804	804
退職給付に係る調整累計額	52	68
その他の包括利益累計額合計	△290	179
新株予約権	160	64
純資産の部合計	138,162	141,765
負債及び純資産の部合計	3,042,523	3,013,032

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
経常収益	43,519	49,611
資金運用収益	21,156	21,912
(うち貸出金利息)	19,535	19,554
(うち有価証券利息配当金)	1,398	2,238
役員取引等収益	8,468	9,121
その他業務収益	12,354	15,173
その他経常収益	1,540	3,403
経常費用	37,134	43,021
資金調達費用	568	1,497
(うち預金利息)	59	69
役員取引等費用	3,839	4,480
その他業務費用	12,081	15,036
営業経費	20,068	21,174
その他経常費用	577	832
経常利益	6,384	6,589
特別利益	0	1
固定資産処分益	0	1
特別損失	53	26
固定資産処分損	49	26
減損損失	4	-
税金等調整前四半期純利益	6,331	6,563
法人税、住民税及び事業税	1,354	1,249
法人税等調整額	552	723
法人税等合計	1,906	1,972
四半期純利益	4,424	4,591
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,424	4,591

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	4,424	4,591
その他の包括利益	△3,413	470
<sub>    </sub> 其他有価証券評価差額金	△3,447	453
<sub>    </sub> 退職給付に係る調整額	34	16
四半期包括利益	1,011	5,061
(内訳)		
<sub>    </sub> 親会社株主に係る四半期包括利益	1,011	5,061

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当ありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当ありません。

(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

該当ありません。

(6) 追加情報

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する一定の仮定)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について、前連結会計年度の有価証券報告書における記載内容からの重要な変更は行っておりません。

2024年3月期 第3四半期財務・業績の概況説明資料

1. 損益の概況【連結】

連結の経営成績は、経費の増加や連結粗利益の減少があったものの、貸倒引当金戻入益や株式等関係損益が増加したことで、経常利益は前年同期を2億5百万円上回る65億89百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を1億66百万円上回る45億91百万円となりました。

銀行単体は、有価証券利息配当金の増加があったものの、外貨調達コスト及び経費の増加により、実質業務純益は前年同期を17億52百万円下回る25億83百万円となりました。

また経常利益は、ネット与信費用の減少があったものの、実質業務純益が減少したため、前年同期を70百万円下回る53億34百万円となりました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期を52百万円下回る37億69百万円となりました。

なお、2024年3月期通期の連結並びに個別の業績予測については、2023年5月12日に公表した値からの変更はありません。

【連結会社別内訳】

(百万円)

		2024年3月期第3四半期								
		(9カ月累計)		琉球銀行	りゅうぎん	りゅうぎん	琉球	OCS	リウコム	その他
		前年同期比		DC	保証	リース			※2	
経常収益	1	49,611	6,092	33,117	1,399	519	12,599	1,417	2,621	△2,063
連結粗利益 ※1	2	25,193	△296	21,876	930	512	1,013	1,045	413	△597
資金利益	3	20,415	△172	20,365	65	0	△101	105	0	△19
役務取引等利益	4	4,641	12	2,909	865	511	11	430	-	△86
その他業務利益	5	136	△136	△1,398	-	-	1,103	509	413	△491
経費(除く臨時損益)	6	21,151	1,132	19,293	521	78	613	845	327	△528
貸倒償却引当費用	7	580	466	576	-	-	-	4	-	-
貸出金償却	8	533	466	529	-	-	-	4	-	-
偶発損失引当金繰入額	9	46	0	46	-	-	-	-	-	-
貸倒引当金戻入益	10	2,028	1,366	2,382	△203	△79	55	△127	-	△0
償却債権取立益	11	220	44	189	4	-	-	27	-	-
株式等関係損益	12	679	480	679	-	-	-	-	-	-
その他の臨時損益	13	199	208	76	63	7	23	8	5	14
経常利益	14	6,589	205	5,334	272	362	478	104	91	△54
特別損益	15	△25	27	△26	-	-	1	-	△0	-
税金等調整前四半期純利益	16	6,563	232	5,307	272	362	479	104	91	△54
法人税、住民税及び事業税	17	1,249	△104	736	154	147	125	55	27	2
法人税等調整額	18	723	171	801	△44	△22	16	△29	6	△5
法人税等合計	19	1,972	66	1,538	110	125	142	25	34	△2
四半期純利益	20	4,591	166	3,769	162	237	337	78	56	△51
親会社株主に帰属する四半期純利益	21	4,591	166	3,769	162	237	337	78	56	△51

グループ総合力の発揮を目的に、連結子会社の貢献度を表すために本表を掲載しております。

※1 連結粗利益 = (資金運用収益 - 資金調達費用) + (役務取引等収益 - 役務取引等費用) + (その他業務収益 - その他業務費用)

※2 「その他」には内部消去等の他、りゅうぎんビジネスサービス(株)、(株)りゅうぎん総合研究所が含まれております。

(参考)

連結業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)	4,042	△1,428	2,583	408	433	399	200	85	△69
連結業務純益 ※3	4,042								

※3 連結業務純益 = 連結粗利益 - 経費(除く臨時損益) - 一般貸倒引当金繰入額



2. 損益の概況【単体】

(1) 概況

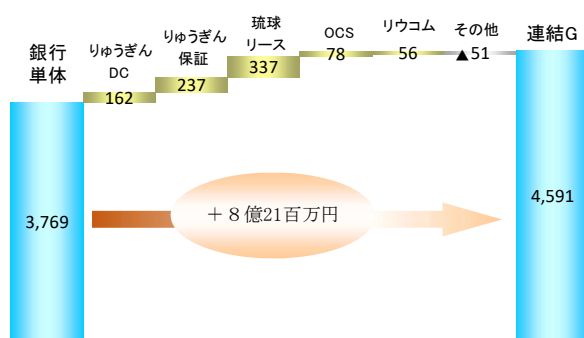
	項番	2024年3月期 第3四半期 (9カ月累計) (A)	前年同期比 (A)-(B)	2023年3月期 第3四半期 (9カ月累計) (B)	2024年3月期 通期予想 (12カ月累計)
経常収益	1	33,117	3,216	29,901	40,300
業務粗利益	2	21,876	△559	22,435	
資金利益	3	20,365	△367	20,732	
役員取引等利益	4	2,909	33	2,876	
その他業務利益	5	△1,398	△224	△1,174	
うち国債等債券損益（5勘定戻）	6	△405	199	△604	
うち売却益	7	252	△17	269	
うち売却損	8	658	△183	841	
うち償還損	9	-	△33	33	
経費（除く臨時処理分）	10	19,293	1,194	18,099	
人件費	11	8,219	295	7,924	
物件費	12	9,391	558	8,833	
税金	13	1,682	340	1,342	
実質業務純益※1	14	2,583	△1,752	4,335	5,100
コア業務純益※2	15	2,989	△1,951	4,940	
除く投資信託解約損益	16	2,904	△2,044	4,948	
一般貸倒引当金繰入額	17	-	-	-	
業務純益	18	2,583	△1,752	4,335	5,100
臨時損益	19	2,751	1,682	1,069	
うち株式等損益（3勘定戻）	20	679	480	199	
うち売却益	21	712	374	338	
うち売却損	22	28	△110	138	
うち償却	23	4	4	0	
うち不良債権処理額	24	576	464	112	
うち貸倒引当金戻入益	25	2,382	1,465	917	
うち一般貸倒引当金	26	1,608	594	1,014	
うち個別貸倒引当金	27	774	871	△97	
うち償却債権取立益	28	189	48	141	
経常利益	29	5,334	△70	5,404	5,800
特別損益	30	△26	27	△53	
税引前四半期純利益	31	5,307	△43	5,350	
法人税、住民税及び事業税	32	736	△214	950	
法人税等調整額	33	801	223	578	
法人税等合計	34	1,538	9	1,529	
四半期（当期）純利益	35	3,769	△52	3,821	4,000
ネット与信費用（17+24-25-28）	36	△1,995	△1,049	△946	
顧客向けサービス利益※3	37	2,965	△1,127	4,092	

※1 「実質業務純益」は、一般貸倒引当金繰入額を除く業務純益。

※2 「コア業務純益」は、一般貸倒引当金繰入額及び国債等債券損益（5勘定戻）を除く業務純益。

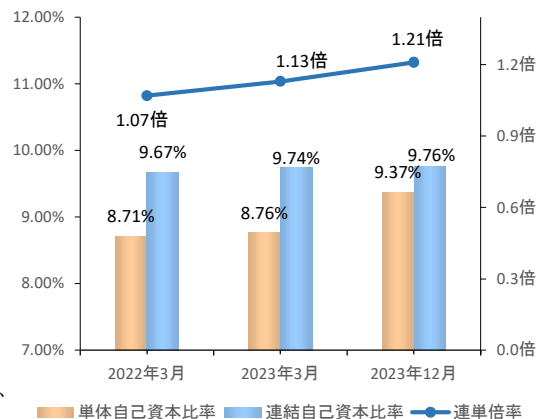
※3 「顧客向けサービス利益」＝預貸金収支＋役員利益－経費（経費のうち人件費は臨時処理分控除前）

親会社株主に帰属する四半期純利益内訳（単位：百万円）



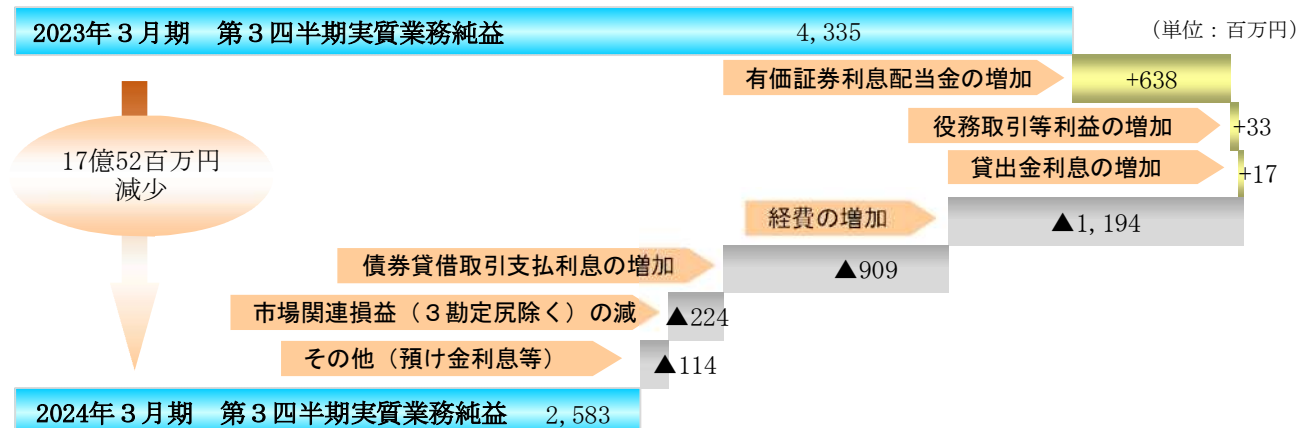
※「その他」には内部消去等の他、りゅうぎんビジネスサービス(株)、(株)りゅうぎん総合研究所が含まれております。

自己資本比率及び連単倍率



(2) 実質業務純益

実質業務純益は、有価証券利息配当金や貸出金利息収入の増加があったものの、経費や債券貸借取引支払利息の増加等により前年同期を17億52百万円下回りました。



貸出金利息は、利回りは低下したもののボリュームの増加により、前年同期を17百万円上回りました。

預金利息は、利回りは横ばいとなったもののボリュームの増加により、前年同期を11百万円上回りました。

有価証券利息配当金は、利回りは低下したものの外貨債券を中心に平残が増加した結果、前年同期を6億38百万円上回りました。

役員取引等利益は、外貨保険手数料や地銀協団信配当が減少したものの、カードビジネス関連手数料及び法人関連手数料収入の増加等により前年同期を33百万円上回りました。

経費は、ベースアップ等処遇改善による人件費増加に加え、システム投資による減価償却費の増加に伴う物件費の増加により前年同期を11億94百万円上回りました。

市場関連損益（3勘定戻除く）は、国債等債券損益（5勘定戻）が増加したものの、主に米国金利上昇による外国為替売買損（外貨調達コスト）の増加により前年同期を2億24百万円下回りました。

債券貸借取引支払利息（外貨調達コスト）は、主に米国金利上昇による増加で前年同期を9億9百万円上回りました。

(3) 株式等関係損益（3勘定戻）

株式等関係損益（3勘定戻）は、ETF等の売却益計上により前年同期を4億80百万円上回りました。

(4) ネット与信費用<sup>※</sup>

ネット与信費用は、一般貸倒引当金戻入および個別貸倒引当金戻入が増加したことにより、前年同期を10億49百万円下回りました。

※「ネット与信費用」は、一般貸倒引当金繰入額を含む不良債権処理額から貸倒引当金戻入益および償却債権取立益を差し引いたもの。

(5) 四半期純利益

以上の結果、経常利益は前年同期を70百万円下回る53億34百万円となり、四半期純利益は前年同期を52百万円下回る37億69百万円となりました。

【参考】顧客向けサービス利益

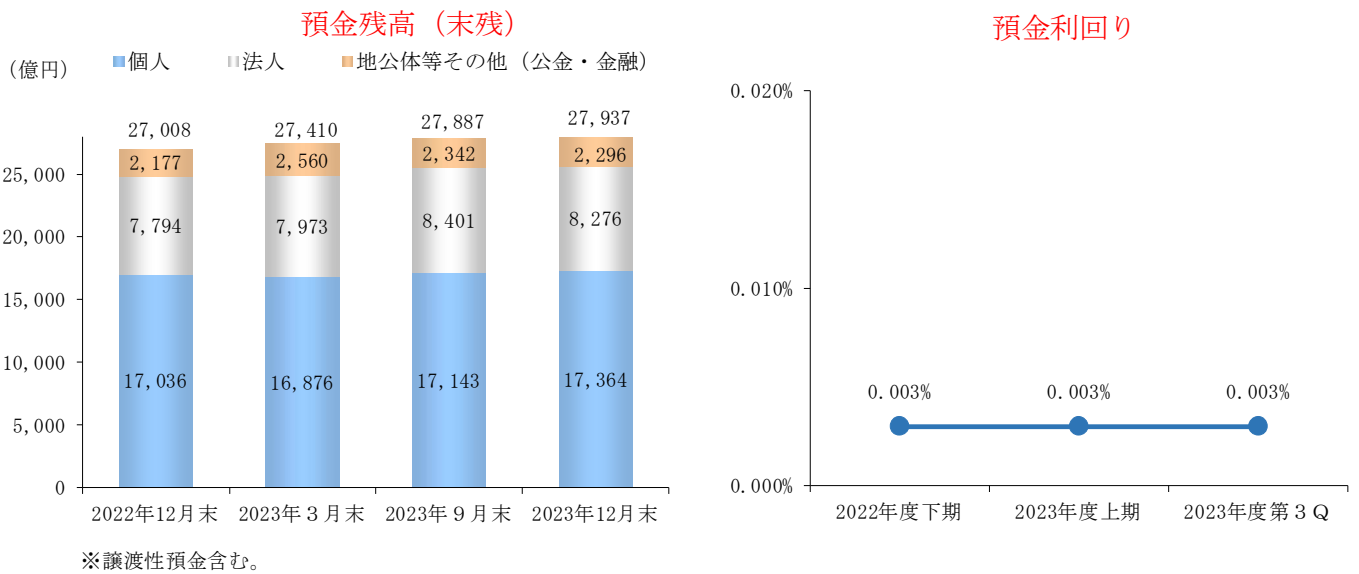
顧客向けサービス利益は、預貸金収支及び役員利益は増加したものの経費の増加により、前年同期を11億27百万円下回る29億65百万円となりました。

### 3. 預金・貸出金等の状況

#### (1) 預金（単体・末残および利回り）の推移

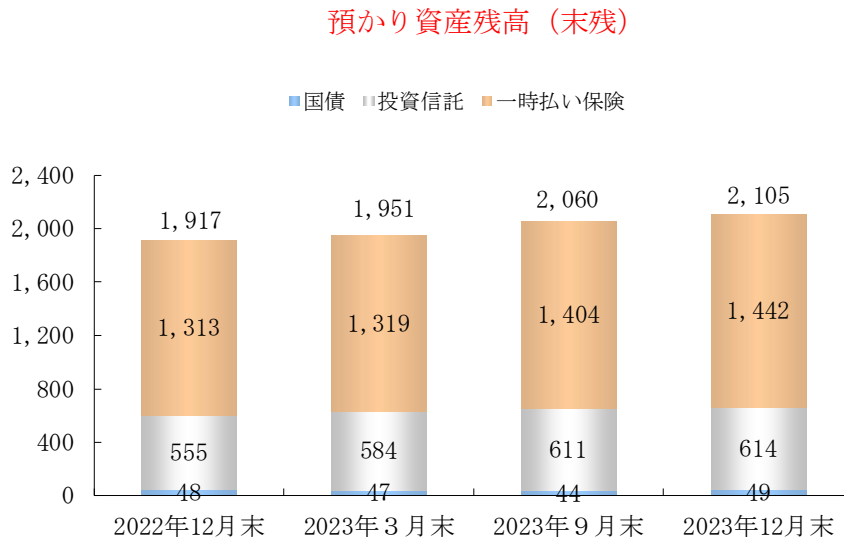
預金（末残）は、個人預金の残高が依然として高いまま推移しており、前年同期末を929億円、前年度末を527億円上回る2兆7,937億円となりました。

預金利回りは、2023年度上期と同水準の0.003%となりました。



#### (2) 預かり資産（単体・末残）の推移

預かり資産は、一時払い保険の利率が高水準で推移した結果主に円建て保険の新規契約が増加したこと並びに投資信託の評価額上昇による残高増加により、前年度末を154億円上回る2,105億円となりました。

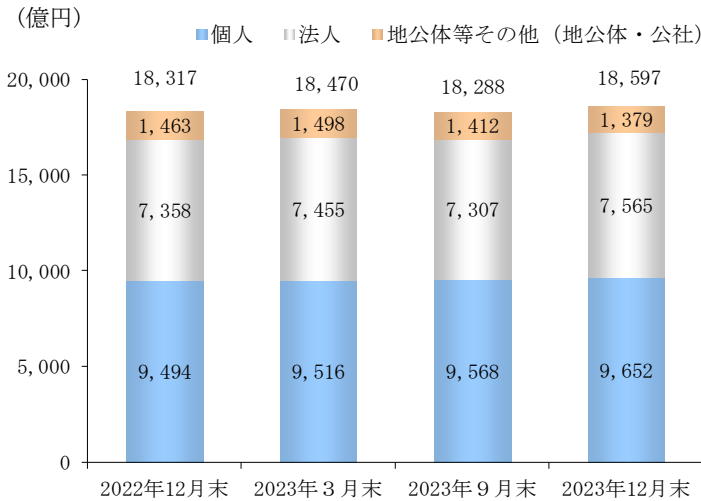


(3) 貸出金（単体・未残および利回り）の推移

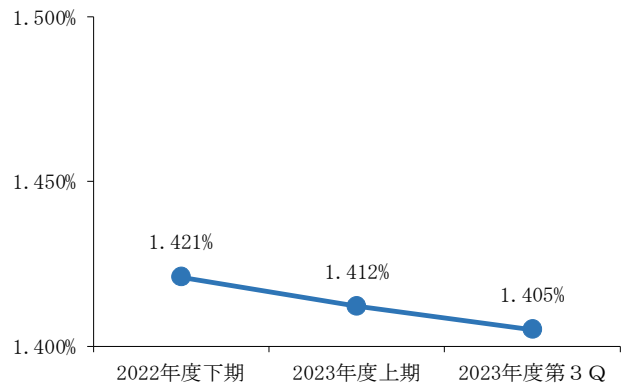
貸出金（未残）は、個人向け貸出が住宅ローンを中心に好調に推移し、法人向け貸出が県内事業資金の需要回復等により増加した結果、前年同期末を280億円、前年度末を127億円上回る1兆8,597億円となりました。

貸出金利回りは、2023年度上期と同水準の1.405%（0.007ポイント低下）となりました。

貸出金残高（未残）



貸出金利回り

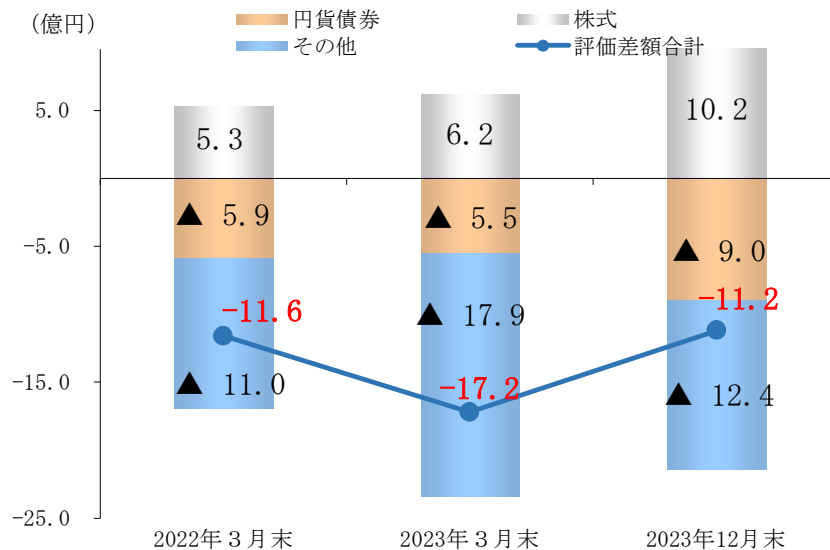


(4) 時価のある有価証券の評価差額（連結）の推移

国内金利上昇により円貨債券の評価損が拡大した一方で、低利回りの外国債券の売却を進めたことで、その他有価証券の評価損が減少しました。また、株式相場が堅調だったことから、有価証券評価差額全体では前年度末比約6億円の改善となりました。

なお、国内・外国債券のデュレーションは3～4年程度となっており、評価損が実現することによる決算の影響は限定的です。金利動向を踏まえ、国内外の債券や株式などの保有比率を戦略的に動かしながら、ポートフォリオ全体の収益性向上を目指します。

時価のある有価証券の評価差額



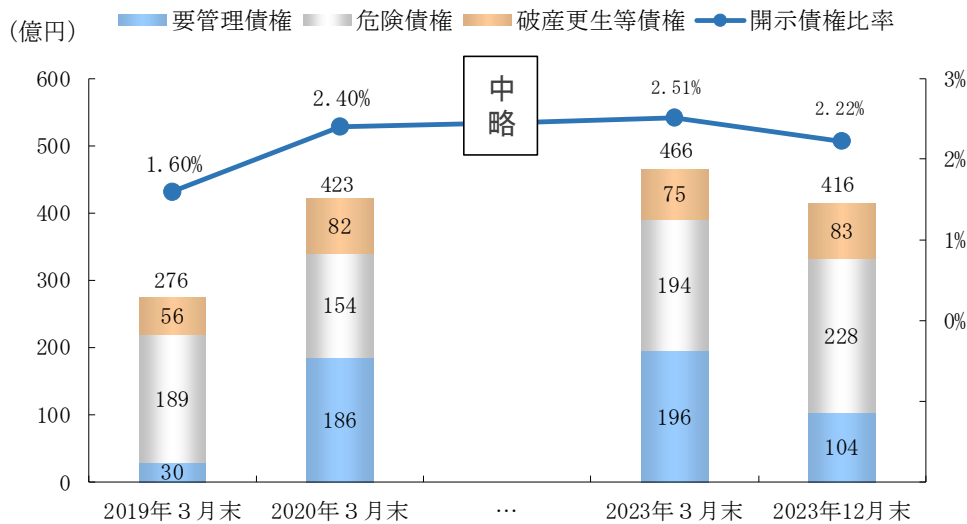
※「その他目的」で時価のある有価証券の評価差額。  
満期保有目的債券の含み損益は「数値編」に記載しております。

(5) -1 金融再生法開示債権（単体）の推移

金融再生法開示債権（単体）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた取引先に対する元金返済据え置きなどの支援目的の条件変更等を積極的に実施した結果、2020年3月末より、主に要管理債権が大幅に増加しました。

事業先の一部において、業況の悪化が見られることから危険債権は増加傾向にあるものの、県内景気の回復等により要管理債権残高は減少し開示債権比率は、2023年3月末比0.29ポイント低下の2.22%となっております。当行は、事業者の事業継続可能性を見極めながら今後も地域金融機関に求められる役割をはたすべく、引き続きお客様支援を実施してまいります。

金融再生法開示債権



(5) -2 自己査定の方

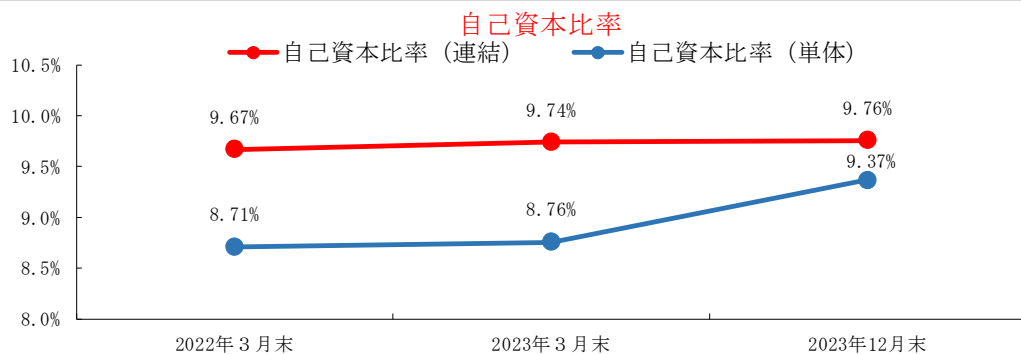
「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月7日閣議決定）において、上述の支援目的の条件変更等を実施した顧客については、債務者区分のランクダウンの対象としない（開示債権としない）特例的な判断も可能とされております。しかしながら、当行においては特例的な措置は採用せず、従来通り顧客の実態に沿った債務者区分判定を実施した結果、2020年3月末に要管理債権が大幅に増加しております。

2021年3月末においては一般貸倒引当金の見積り方法を「フォワードルッキングな引当」に変更し、将来のリスク拡大に耐えうる十分な引当を計上いたしました。当行は、更なる経済環境悪化等による将来の損失への備えを強化できたと判断しております。

(6) 自己資本比率（連結・単体）の推移

連結自己資本比率は、リスク・アセットが増加したものの利益の積み上げ等により、2023年3月末比0.02ポイント上昇の9.76%となりました。単体自己資本比率は、利益の積み上げ等に加え、信用リスク削減手法の精緻化対応等によりリスク・アセットが減少し、2023年3月末比0.61ポイント上昇の9.37%となりました。

2024年3月末は、連結は9.7%程度、単体は9.3%程度をそれぞれ予想しています。



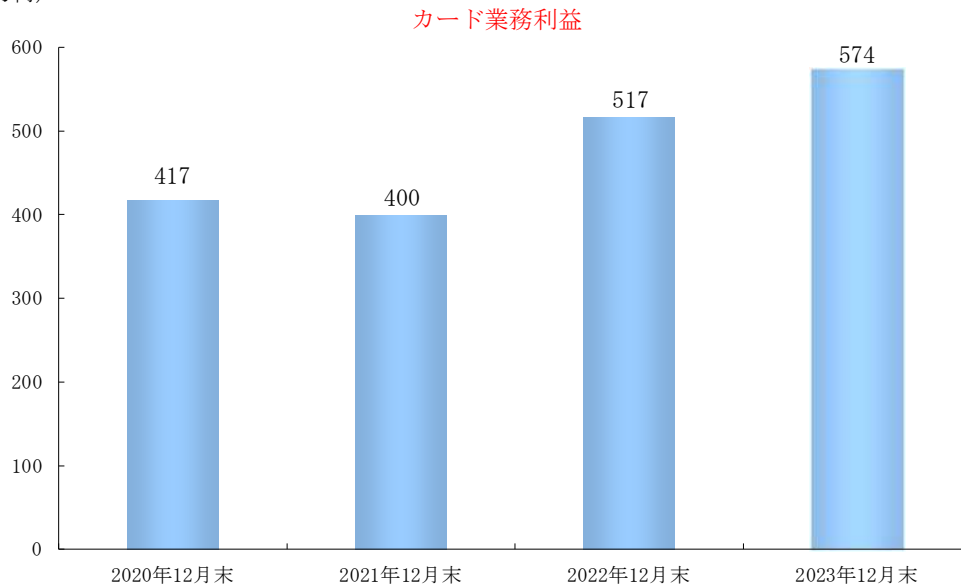
(7) カード業務利益（単体）の推移

（単位：百万円）

	2023年12月末		2022年12月末
		2022年12月末比	
カード業務利益	574	57	517
カード業務収益	1,766	340	1,426
カード業務費用（△）	1,192	282	910

※銀行本体で行っているりゅうぎんVisaデビットカード発行業務およびカード加盟店業務における役務利益。

（百万円）



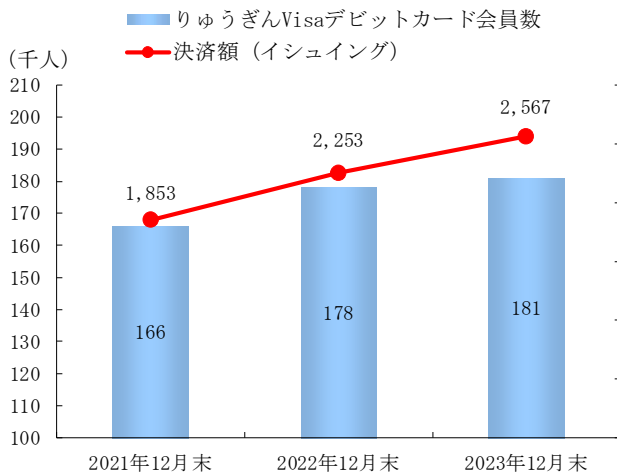
(8) りゅうぎんVisaデビットカード会員数および加盟店契約数の推移

（単位：会員数：千人、契約数：先、決済額：百万円）

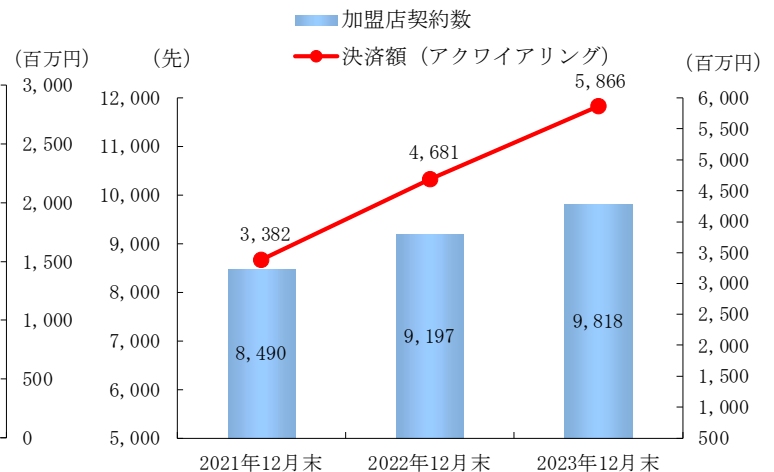
	2023年12月末		2022年12月末
		2022年12月末比	
りゅうぎんVisaデビットカード会員数	181	3	178
決済額（イシューイング）	2,567	314	2,253
加盟店契約数	9,818	621	9,197
決済額（アクワイアリング）	5,866	1,185	4,681

※決済額：1ヵ月間の合計決済額の平均（12月期は4月～12月の9ヵ月平均）

りゅうぎんVisaデビットカード会員数および決済額



カード加盟店契約数および決済額



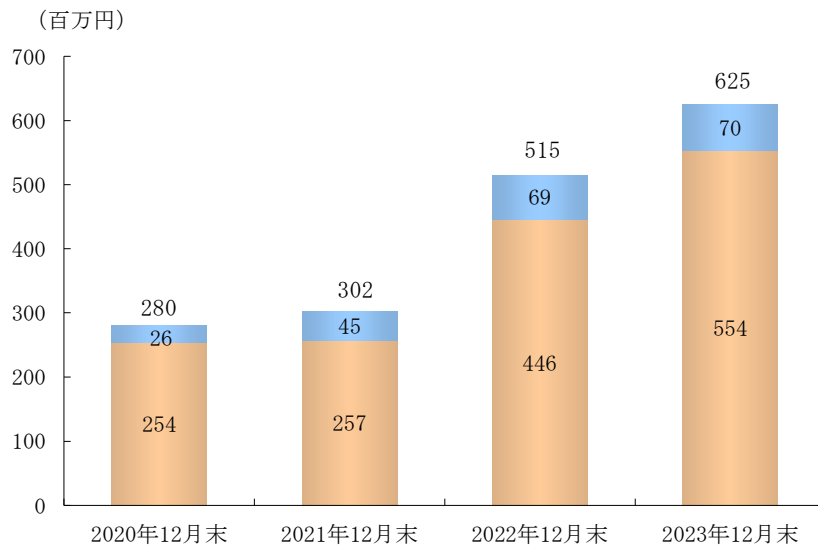
(9) コンサルティング業務利益（単体）の推移

（単位：百万円）

	2023年12月末		2022年12月末
		2022年12月末比	
コンサルティング業務利益	625	110	515
法人向けサービス	554	108	446
個人向け資産承継サポート	70	1	69

コンサルティング業務利益

■個人向け資産承継サポート ■法人向けサービス

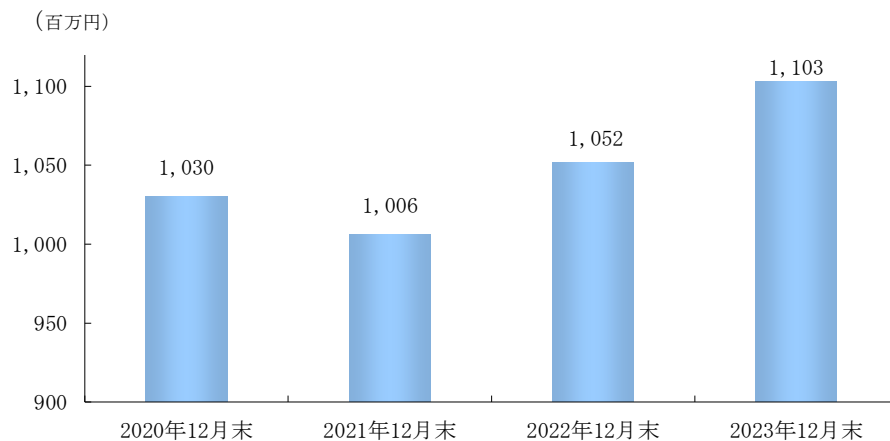


(10) リース業務利益（連結）の推移

（単位：百万円）

	2023年12月末		2022年12月末
		2022年12月末比	
リース業務利益	1,103	51	1,052

リース業務利益（連結）



<参考>

預金・貸出金等の状況【数値編】

(1) 預金【単体】

(単位:億円)

	2023年12月末		2022年12月末		2023年3月末	
預金(未残)	27,937		27,008		27,410	
うち個人預金	17,364		17,036		16,876	
預金(平残)	27,833		26,897		26,886	

※譲渡性預金含む

(2) 預かり資産【単体】

(単位:億円)

	2023年12月末		2022年12月末		2023年3月末	
国債	49		48		47	
投資信託	614		555		584	
一時払い保険	1,442		1,313		1,319	
合計	2,105		1,917		1,951	

(3) 貸出金【単体】

(単位:億円)

	2023年12月末		2022年12月末		2023年3月末	
貸出金(未残)	18,597		18,317		18,470	
うち住宅ローン	5,680		5,515		5,535	
貸出金(平残)	18,300		18,145		18,195	

(4) 時価のある有価証券の評価差額【連結】

(単位:億円)

	2023年12月末		2022年12月末		2023年3月末	
	時価	評価差額	時価	評価差額	時価	評価差額
その他有価証券	6,006	△11	3,890	△61	4,027	△17
株式	10	10	16	6	14	6
債券	4,952	△9	2,802	△26	2,917	△5
その他	1,043	△12	1,071	△41	1,095	△17

(注) 1. 「評価差額」及び「含み損益」は、基準日時点の帳簿価額(償却原価法適用後、減損処理後)と時価との差額を計上しております。  
 2. 満期保有目的の債券に係る含み損益は以下のとおりであります。なお、時価のある子会社、関連会社株式は該当ありません。

(単位:億円)

	2023年12月末		2022年12月末		2023年3月末	
	帳簿価額	含み損益	帳簿価額	含み損益	帳簿価額	含み損益
満期保有目的の債券	738	△0	108	△1	707	1



(5)「金融再生法ベースのカテゴリーによる開示」【単体・連結】（単位：億円）  
【単体】

	2023年12月末	2022年12月末	2023年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	83	72	75
危険債権	228	185	194
要管理債権	104	183	196
合計	416	441	466
開示債権比率	2.22%	2.39%	2.51%

【連結】

	2023年12月末	2022年12月末	2023年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	111	97	97
危険債権	229	186	194
要管理債権	108	186	200
合計	448	470	492
開示債権比率	2.39%	2.54%	2.65%

(6) 自己資本比率(国内基準)【単体・連結】

	2023年12月末 実績	2024年3月末 予想値	2023年3月末 実績
単体自己資本比率	9.37%	9.3%程度	8.76%
連結自己資本比率	9.76%	9.7%程度	9.74%

(注) 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。